



第28回中国地区女子神職会(令和4年6月7日) 於：小鴨神社



万葉集をよむ

照國神社

宮司 福田 恭子

「瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして思はゆ いづくより 来りしものそ まなかひに もとなかかりて 安眠しなさむ」

反歌

銀も 金も玉も 何せむに 優れる宝 子にしかめやも「山上憶良(養老五・七一年、伯耆国守)」

「新しき 年の初めの 初春の 今日 降る雪の いや重げ吉事」大伴家持(天平宝字三・七五九年正月、因幡国守)(万葉集四五・一六首最後の歌)

「我が舟は 比良の湊に 漕ぎ泊てむ 沖辺な離り さ夜ふけにけり」(高市連黒人、七〇〇年前後、宫廷歌人として行幸に随行、沢山の地名が出て来る)

右は、「元号「令和」の典故となった万葉集の歌の一部です。そして、コロナ禍で二年も延期した「第二十八回中国地区女子神職研修会」で、お二人の講師先生からご講義いただいた万葉集歌人です。前の二歌人は、いずれも鳥取県に国守として赴任し、その功績を称え倉吉市と国府町にそれぞれ記念碑が建立されています。さらに「山上憶良

短歌賞」「大伴家持大賞」が設けられています。

三人目の万葉歌人は、旅先での歌が多く、神社巡りや旅好きであろう女子神職達の為に取り上げてくださいます。

今、ある神社の禰宜様の肝いりで「万葉集をよむ」会が月一回程度開催されます。私も、時々参加させていただきまます。先生は、中国地区女子神職研修会の時の講師先生のお一人です。季節を歌った歌、貧窮問答歌等、先生の歌い方に引き込まれ、万葉時代の情景、心情を思い描きながら、時の流れを感じたり、自然や現代の人々の暮らし等と照らし合わせたりして、楽しいです。その内、相聞歌にロマンを感じるかもしれないし、挽歌に自分の身を重ねるかもしれない。

短い言葉の中に、沢山の「思いやり」が詰まっています。魅力的です。綺麗です。私は、いつになれば三十一文字表現が出来ることでしょう。時を見付けては、万葉集を読み、万葉集を片手に旅をしたいと願っています。

*「第二十八回中国地区女子神職研修会」は、令和四年六月七日に鳥取県倉吉市で、規模を縮小して実施しました。講師は、山上憶良の会長 福井伸一郎 先生、東小鹿神社宮司 川上寛史先生 *「万葉集をよむ」 湯梨浜町倭文神社内

講師 川上寛史先生

第28回中国地区 女子神職研修会をおえて



当番県の 一役員として

賀茂神社 権禰宜 金田知子

第28回中国地区女子神職研修会を計画し、「準備万端、さあ御案内」という段階でコロナ禍に見舞われました。研修会は延期か開催か、開催するなら時期・



規模・内容はどうか。何をどう決めるにも正解はありません。会員で話し合いを重ねるも判断は難しく、開催に至るまでの約二年は、正に五里霧中・暗中模索と言える日々でした。私は会計係として、県内の宮司様方から寄せられた助成金をお預かりしたまま二年半を

過ごしました。責任を抱えたまま迷い道をさまよっている気持ちになり、一年一年とても長く感じておりました。
令和四年六月、コロナが一旦落ち着きを見せ、研修会を開催できた時は、正直なところ安堵の気持ちで一杯になりました。物心両面でご支援をいただきました皆様、本当にありがとうございました。

初めての開催延期

松崎神社 宮司 渡邊香里

今回の研修会はコロナによる二度の延期を経ての開催となりました。

初年度は研修案内を発送した直後に緊急事態となり、急いで延期の文書を送ったことを強く記憶しています。

二年目になると、本当に開催できる日は来るのだろうかという不安が大きくなり、研修の計画も一から考え直さなければいけないのかもしれないと思っていました。

三年目、「このまま先延ばし



にしていたらいつまで経っても開催できない」と福田会長が奮起してください、日帰りに予定は変更しましたが、講義・神社参拝は当初の計画通りで研修を行うことができました。

三年も延期した為、講義内容の練り直しが必要だったのにも関わらず、快く講義を引き受けてくださった福井先生・川上先生。また度重なる予定の変更にも応じてくださり、正式参拝並びに文化財見学をさせてくださった小鴨神社さま。他にもたくさんの方が助けてくださったお陰で無事に開催出来た研修会だと思えます。皆様本当にありがとうございました。

みんなの独楽吟

独楽吟を詠もう！



*独楽吟：幕末の歌人、曙覧の「たのしみは」で始まり「…とき」で終る形式で詠んだ歌で、曙覧の日常などが詠み込まれています。
講義の中で川上先生に頂いた課題、「自分なりの独楽吟を詠もう」に寄せられた参加者の歌です。詠み手それぞれの思いがこもった独楽吟です。

たのしみは 檜扇執りて 祭禮日
静々と舞う 子等をみる時
多静子先生に思いをさせて

広島県 松原ひさみ

たのしみは 当選番号 知るまでの
捕らぬジャンボの 夢算用

広島県 宮永 美恵

たのしみは 小忌衣縫いて 例祭日
氏子総代 揃いて撮る時

鳥取県 田中 洋子

たのしみは 母待つ家 おかえりと
迎えてくれる 平穩の時

鳥取県 田中 洋子

たのしみは 祭りの片付け 終わらせて
「おつかれさま」と 乾杯する時

鳥取県 渡邊 香里

たのしみは ほころぶ花か 芽吹く葉か
ある日俄に 春匂ふ時

山口県 坂田 康子

たのしみは 夏日の中で たわむれて
喉をうるほす 冷茶のむ時

鳥取県 池本 令子

たのしみは 今日行く所 有ってよし
いつもの広場 友の待つ時

鳥取県 池本 令子

たのしみは 一日はたらき 家帰り
家族と語りて サワーあける時

鳥取県 山中 瞳子

たのしみは たけのこトマトと 瓶詰めし
並べて 悦にいます

岡山県 松岡多衣子

たのしみは その日心に決めた事
やりつくし 家族そろいて 乾杯する時
鳥取県 山中 庸子

たのしみは 受話器の向こう 母の声
喜びあふるる 顔見ゆる時
く郷里で一人暮らしの母を想ひてく
鳥取県 橋川 史

たのしみは 故郷の銘菓 お土産に
女子寮の九月 活気戻る時
鳥取県 金田 知子

たのしみは ジャンケンに勝ち
給食のデザート ゲットした時
二個残る
鳥取県 金田 知子

たのしみは ユーチューブあけて 推し探し
元気な美顔に ひとりほくそえむ時
岡山県 白神 倫枝

たのしみは 風呂上がりに むすめ娘と
庭で涼む時
鳥取県 錦田 充子

たのしみは おひとりさまの 友達の
作るごはんに 舌つづみうつ時
鳥取県 上屋敷明美

たのしみは 今年もできた 梅仕事
疲れ知らずの 夏のひとくち
鳥取県 上屋敷明美

たのしみは 例祭前夜 星空に
はためく幟を 見上げてる時
鳥取県 三須たづる

たのしみは 湖畔の散歩 愛犬と
影長くなる 夕暮れの時
鳥取県 馬田 美香

たのしみは 温泉つかり 馳走食む
家族揃いて 笑顔あふる時
鳥取県 大澤かおり

たのしみは 裏の畑の 咲く花に
水さしかけて おはよう言う時
鳥取県 福田 恭子

たのしみは 床に軸かけ 花置きて
香を聞ききき 一服する時
鳥取県 福田 恭子

たのしみは あけみの歌を 教わりて
詠みたる歌の 封開ける時
鳥取県 福田 恭子

有隣荘の見学と 食事会・総会

白尾神社 宮司 上屋敷明美

令和四年七月二日は有隣荘の見学・昼食会の日でした。この日は三十八度を超える酷暑でしたが、一步ロビーに入るとゆつたりとした椅子があり、冷たいお茶を頂くと、一瞬にして外の暑さを忘れる心地よさに包まれました。

有隣荘の名前の由来は『徳は孤ならず、必ず隣あり』(論語)



意味は、人柄の良い人は決して孤独ではなく、必ず隣人ができるといふことだそうです。

まず建物の説明をお聞きしました。江戸・明治・大正・昭和の時代を経てきた建物、調度品、茶室、庭。大きく変化した時代の中で、貴重な数々の物を残そうと尽力した人がいて、またそれを公開しようと汗をかいた人がいて、確かに受け継がれていました。その数々の物を間近に見て、現在神職として時代の末端にいる私たちがしなければならぬこと、次の世代に残していくべきことがあるのだろうと衿を正す機会になりました。

昼食会場に移動し、御品書きを見ながら懐石料理を味わいました。様々な食材で色鮮やかに盛り付けられたお料理を堪能しました。普段作る側の私たちに、かけがえのない豊かな時間となりました。

コロナ禍での自粛で集まることがなくなり、共に学び、共に食事をするこの大切さを痛感しました。この時期に有隣荘を訪れたことで、鳥取県女子神職会がこれからも『徳は孤ならず 必ず隣あり』の存在であ



り続けられると思いました。

午後神社庁に移動し、令和四年度の総会を小森治比古副庁長を来賓にお迎えして行いました。コロナ禍で中止の事業もありましたが、中国地区の研修会が規模を縮小しながらも終えられたことを皆で喜び合いました。

新年言寿会

三輪神社 禰宜 門脇理恵子

令和五年二月十八日、新年神社参拝と新年言寿(ことほぎ)

会に出席させていただき、果たして何年ぶりになるのか自分でも定かでないほど久しぶりに、会員のみなさまにお目にかかることができました。

いつも様々な会のご案内をいただいておりますが、忙しさにかまけてご無沙汰ばかりしておりますのに、みなさまに温かく迎えていただき、本当にありがとうございます。

米子市の貴布禰神社では、来海宮司様、禰宜様にお出迎えいただき、正式参拝の後、神社の由緒など様々なお話を伺い、画家で絵本作家の玉井詞氏が奉納された干支の大絵馬も拝見しました。



お昼は近くの「琥珀月」でランチをいただきました。とてもお洒落なお料理で、日本酒にもこだわりのあるお店でしたが、四月に閉店してしまいましたので、その前にみなさまとご一緒できてよかったです。

日々、仕事に神明奉仕にと忙しくしておりますと、いろいろと大切なものを見落としがちになります。今回久しぶりに会に参加して、同じ道を歩く諸先輩方や同輩のみなさまとお話できたことで、改めて神職としての自分を見つめなおし、たくさんの学びと前進むための勇気をいただきました。やはり、女子神職会も自分にとってとても大切な場所なんだなあと実感しましたので、また参加させていただきたいと思います。
今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

令和3年度 鳥取県女子神職会 活動報告

【令和三年】

七月七日(水)

研修会「和歌に親しむ」
講師「山上憶良の会」

会長 福井伸一郎先生

倉吉市山根 九名

「倉吉シティホテル」

七月七日(水)

鳥取県女子神職会 定例総会

①令和元年度事業報告・決算報告

②令和二年度事業計画・予算承認

倉吉市山根 九名

「倉吉シティホテル」

十二月九日(木)

役員会

東伯郡琴浦町 五名
「福田邸」

【令和四年】

三月七日(月)

役員会

東伯郡琴浦町 五名
「福田邸」

四月四日(月)

役員会

東伯郡湯梨浜町 四名
「松崎神社祈禱殿」

五月十七日(火)

第二十八回中国地区女子神職研修会
実行委員会

東伯郡湯梨浜町 十二名
「アロハホール」

六月七日(火)

第二十八回中国地区女子神職研修会

倉吉市山根 二十七名

「倉吉シティホテル」

六月二十二日(水)

監査会

東伯郡琴浦町 五名
「まなびタウンとうはく」

六月二十二日(水)

役員会

東伯郡琴浦町 七名
「まなびタウンとうはく」

六月二十日(月)

会報「うらやす」三十号発行

編集後記

第二十八回中国地区女子神職研修会が開催されたから早一年半が経過いたしました。

研修後すぐに編集に入ったはずなのに、発行が遅れ、事業報告も一年のものとなり大変申し訳ありません。

いつの間にかコロナも五類となり、生活もお祭りも以前の日常を取り戻しつつありますが、この三年間で疎遠になってしまった人との関係を取り戻していくのは簡単なことではないなど感じています。ここからもう一度、新しく作っていく覚悟を持って会務や社務に挑んでいこうと思います。

(渡邊)